

会 議 録

会 議 名	令和7年度文化によるまちづくり推進委員会（第1回）		
開 催 日 時	令和7年7月23日（水） 午後6時～午後7時30分		
開 催 場 所	市役所3階 第2委員会室		
出 席 者	岸田茂、佐久間慶和、佐々木宏志、吉野浩美、大田誠、 縄田也千、伊藤久美子、穂本真一、松永進、伊達洋二、 塩田賢二	委 員 数	13人
欠 席 者	脇本忠典、竹内道子	出席者数	11人
		欠席者数	2人
事務担当課 及び職員	協創部文化スポーツ推進課 文化スポーツ推進課：原田課長、桑原主幹、野田主査、桑原		
会 議 次 第	1 委員長あいさつ 2 委員及び事務局の自己紹介 3 報告事項 （1）令和6年度文化振興事業について （2）令和7年度文化振興事業について 4 議題 （1）文化芸術データベースについて （2）令和6年度事業のアンケートについて 5 その他		
事務局	次第3 報告事項 （1）令和6年度文化振興事業について （2）令和7年度文化振興事業について 資料1、資料2に沿って説明。		
	資料1について1点ほど修正がある。 1 ページ目に記載の子ども文化ふれあい事業について、事業名が「月亭方正、瀧川鯉斗二人会」となっているが、正しくは「月亭方正落語会～太神楽とともに～」である。		
	委員		
	資料掲載の行事について、市主催とあるが、全て文化スポーツ推進課が主催という認識でよろしいか。		
	事務局		
委員	文化会館も含めて、全て文化スポーツ推進課が主催である。		
事務局	行事を開催するにあたって、市民への周知はどういった方法を用いているのか。		

事務局	市ホームページや広報紙、LINEやInstagramといったSNS、チラシ・ポスターを各地域交流センターに配架するといった方法だ。
委員長	本市はネットワークが課題だと感じる。これだけの事業を開催しているが、うまく市民に告知できていないように感じる。
委員	言葉の確認だが、アウトリーチ事業というものはどういったものを指すのか。
事務局	通常のイベントであれば、不二輸送機ホールといったイベントホールなどで開催し、お客様自身に足を運んでいただくが、アウトリーチ事業は学校や商業施設といった身近な施設に演者自らが出向き、鑑賞の機会を提供するといったものだ。
委員	企画するのは市なのか。
事務局	委託という形をとっている。
委員	去年までサンパークで開催したゴスペル事業は、3年間継続したため終了したという認識でよろしいか。
事務局	おっしゃるとおりだ。3年を一区切りと捉え、同事業を3年継続した後は、また新たな事業に取り組んでいる。
委員	3年継続した後に、今後も同事業を継続する場合には、自主的に開催していただくという形をとるということなのか。
事務局	アウトリーチ事業とは、市民館や不二輸送機ホールといった公共施設や音楽ホールに足を運ばなくても、身近な環境で音楽や文化に触れてもらうことを目的とした施策である。この中で、ゴスペルイベントが非常に好評を博したイベントであったことは理解している。初年度は下関からプロのゴスペル団体を招へいし、歌ってもらうだけのイベントであった。しかし、3年目には市民クワイアと題し、一緒に歌っていただける人を一般公募で募り、一般の方に向けて、プロのゴスペル歌手と共に歌う機会を提供した。このイベントは観客も多く集まり、観覧無料ということもあったが、サンパークのシンデレラ階段のふもとがほぼ満員となるような状況であった。市としては、ゴスペルの振興を目的としておらず、また、事業の固定化を避けるために、3年間を一区切りとし、ゴスペルイベントから手を引いた次第である。

	一方で、市民活動推進課が同事業を引き継いでおり、市民活動団体によって継続的な活動が行われる可能性があることを聞いている。
委員	承知した。
委員	今年度に行われた「能と狂言の世界・ワークショップ」について、市内小学6年生を対象に開催されているが、参加人数は何人か。
事務局	今年度は市内全小学校6年生の498名を対象に開催した。これに引率が加わり、鑑賞者数は約530人ほどだ。
委員	参考資料の予算について、文化振興費や市民館費の中に委託料とあるが、これまで示された文化事業に充てられているものという認識でよろしいか。
事務局	文化事業の委託料も入っているが、それ以外にもエレベーターの点検であったり、館清掃の委託料であったりといったものも含まれている。
委員	この中で文化振興費に充てられるのはどのくらいなのか。
事務局	文化振興費にかかるものが事業費と思っていただければと思う。その他のものは館運営費等に使用しているものである。
委員	今年度は550万円で資料記載の事業を行うという認識でよいか。
事務局	若干の誤差はあると思うが、その認識で大丈夫だ。
委員	今年度は昨年度に比べて事業費が減っているということでよいか。
事務局	おっしゃるとおりだ。昨年度は、不二輸送機ホール開館30周年ということで多くの予算がついていた。
	次第4 議題 (1) 文化芸術データベースについて 資料3 に沿って説明。
委員	資料3について、重複ありとなっているが詳しく教えて欲しい。
事務局	地域交流センターで活動している生涯学習クラブが、同じ内容でいくつか

	の地域交流センターで活動していたり、文化協会所属の団体が地域交流センターを貸館でつかっていたりしている。資料内では、そういった団体を省略していないため重複ありとしている。
委員長	おそらく、この表に記載のない団体は本市にまだ多くあると思われる。ただ、このリストを何らかの方法で多くの人の目に届くようにした場合、自主的にリストに掲載して欲しいという団体が出てくるのではないかと思う。そうなってくると、リスト記載の団体も増えて、本市の文化活動に興味がある人が索引に使用することができるようになる。 ちなみに、他市ではもっと多くの活動団体が存在していると思われる。
委員	他市ではどのくらいの団体があるのか。
委員長	詳しい数はわからないが、資料の表紙には市内の邦楽団体数が 24 団体と記載されていると思う。しかし、宇部市を例に挙げると、この数の約 3 倍の団体が存在する。また、仮に他の分野で団体数が同程度だったとしても、団体に所属している人数はかなり違う。この差が他市との文化成熟度の違いだと考える。この違いは、その市町の文化的な成熟度や豊かさの指標であり、いわばその市町の文化財産そのものだと思う。また、子どもたちがいかに文化教養に触れる機会があるかという指標にもなる。たとえば、邦楽団体が多く活発である市町ほど、文化活動が盛んであり、子どもたちがこうした活動に触れる機会が多くなる傾向がある。そのため、邦楽団体やクラブ活動の存在は重要な指標として機能する。そして、資料の中にクラブ活動の数字が出ていると思うが、吹奏楽や合唱といった文化活動が非常に少ないと感じる。
委員	そうゆう意味では、このリストが出来上がったことは、指標を知ることができる良い機会になったと思う。これに、他市の状況も知ることができたらなお良いと考える。改めて文化振興とは中々難しいのだなと感じている。
委員	早速ホームページ作成に取り掛かった方が良いのではないか
委員長	そうしたいが、まずは責任者等といった細かいところを詰めていかないといけない。
事務局	ホームページ作成にあたっては、今一度振興ビジョンに立ち返っていただくことがいいのかなと思っている。基本目標の一つである「文化芸術のつくり手の活動を支えます」中にデータベースの構築と拡大という言葉が明

	記されており、前期行動計画内ではさらに詳細に評価指標と具体的なプログラムが記載されているので、こちらをホームページ作成の参考にしてみてもどうかと思う。なお、データベースについては、令和6年度の運用開始を目指していたが、今に至っているという現状である。
委員	データベースについては、作るのが目的ではなく、これを活かし本市の文化芸術の振興にどうつなげていくのが重要だ。簡単な検索が出来て、各団体の詳細が分かるようなものであればよいと思う。
委員長	いきなりデータベースにアクセスしてもらうのは難しいと感じるので、市や観光協会、文化協会といったページに紐づけさせるのがいいと思うがどうか。
委員	入口は多くあった方がいいと思う。
委員	システム作成に初期費用がかかるが、本委員会でホームページを作成したほうが良いのではないか。システム作成後のデータ入力については我々でもできる。
委員長	既存のシステムではできないのか。
事務局	どこまでのものを作り上げていくかで話が変わってくる。一般的なシステムを使用することはあまり好ましくないように思う。 そのため、専用ホームページを作成するか、市のホームページに組み込むかになってくると思う。あとは、それをどうリンクさせていくのかの話になってくる。
委員長	情報の更新がやりやすいものがあるといい。各団体のイベント等の宣伝に使用してもらいたい。
事務局	市ホームページは市職員以外の更新が出来ないので、各団体が運営するとなると外部でサーバーを作成したほうがいい。
委員長	果たして各団体がアクセスできるものがあるのか協議する必要がある。
事務局	それぞれの団体がこまめに情報を更新してもらう方がこちらの手間も省ける。ただ、更新してもらえないことが多々あり、頓挫した事例も少なくない。また、高齢者が多いため、そもそも更新が難しい団体もあるはずだ。

事務局	文化協会のホームページで、各団体を分野ごとにまとめられているが、それを見ての問い合わせはあるのか。
委員	あまりない。年に1回あるかないかだ。 地域交流センターでは、団体をまとめていたりはないのか。
事務局	おそらくされていない。今回の調査にあたって、生涯学習クラブについては年度ごとに募集があり、ホームページにも情報が掲載されているため、多くの団体の記載があったが、貸館については、逐一の把握はしておらず、台帳を見ないと分からないということで、あまり記載がなかった。
委員長	市が推進しているガラスやかるとについては、どこに問い合わせをしたらよいのかということが分かりやすいが、それ以外の文化芸術については情報があまりないため、知ろうとしても調べるのが難しいというのが現状だ。
委員	茶道や華道については、学校のクラブ活動で呼ばせていただいている。他の小学校でも呼ばれているところが多いと思う。
委員長	その指導者はどのように知るのか。
委員	地元の地域交流センターに尋ねて、来ていただいている。
委員	その延長で学校の体験では物足りない子どもたちが、地域交流センター等で活動をしてくれると、本市の文化の輪が広がっていくように感じる。
委員長	子どもたちが簡単にアクセスできるようなプラットフォームがあればよいと思う。
委員	結局、ホームページについてはやるのか。
委員長	一応やる方向で進めていいと思うが、運営についてはしっかり決めなければならない。
委員	初めは業者に枠を作成してもらい、まずは最低限のデータをこちらで打ち込む必要がある。そこからの更新は各団体に任せるが、それぞれの温度差で更新等のばらつきは出てくると思う。
委員長	先ほど市のホームページでは第三者が関わると好ましくないということ

	であったが、そもそも第三者がホームページ運営について関与したほうがよいのか。
委員	更新については、各団体でやっていただかないと難しい。ただ、各々ではやらないところも多いと思うので、どこかが情報を取りまとめて更新していくという形が現実的ではある。
事務局	先ほど、文化協会のお話でもあったが、名簿を掲載しても問い合わせが年に一回程度という状況で同内容のホームページを作成して、それをどのように展開していくのが大切であると思う。単にデータベースを掲載したところで反響がなければ意味がないため、工夫が必要である。 また、文化協会との区別で、このままの状態で作成してしまうと、ほとんどが文化協会の情報になり、文化協会が作成しているものに少しの情報加わっただけのものになる。
委員長	費用はどのくらいかかるのか。
事務局	単に Excel データ等を掲載する場合は無料であるが、外部に委託するとなるとどの程度の機能が必要かによって金額が変わってくる。
委員	文化協会のサイトへのアクセス数はどのくらいあるのか分かるのか。
委員	何人アクセスしたかは分からない。また、情報更新については、イベントは都度更新しているが、団体情報は1年に1回である。
委員	ホームページについては更新をしなければすぐに陳腐なものになってしまうので、中々人の目に届かない。更新というものはかなりエネルギーを要するものであるが、内容の変更がなくても更新日だけでも、日々変更していく必要がある。
委員長	文化協会のサイトにアクセスしている人は文化協会メンバーが主だと思う。ただ、それを外部に発信していこうとなると方法が思い浮かばない。
委員	どこからアクセスさせるかが重要だ。
委員	イベントの開催者は、多くの人に来てほしいためチラシ等で周知しているが、果たして人が集まるのかという不安に駆られていると思う。そういう時にイベント情報が定期的に掲載されているサイトがあり、イベントの周知を後押ししてくれたら喜ぶのではないか。現状でも、各団体が SNS を駆

	使してイベント告知をしているが満席にはならない。SNS の欠点は行きたいと思ったときに検索しにくいというものがある。その点、ホームページについては情報が消えないので検索しやすい。そのため、イベント告知の部分を充実させていけばアクセス数は伸びていくのではないかなと思う。各団体の詳細については、あまり更新しなくてもよいのではないかな。
委員	検索を待っているよりかは、こちらから情報を届けたほうが早いのではないかな。宇部市では、週に1回ほど子供向けのイベント情報を保護者向けに、市から一括にメール配信している。このように情報が自動的に入ってくると行ってみようとなるが、わざわざ検索までしては行かないと思う。
委員長	山陽小野田市では、保護者向けに情報の一斉配信はできるのか。
委員	現状はそれぞれの学校が連絡ツールを契約しているので難しい。宇部市では連絡ツールを一本化しているため出来ている。
事務局	本市では、それぞれの学校にデータ等を送付し、学校から児童や保護者に告知していただく手法を取っている。
委員	ただ、それでは学校側で配布等の準備をしなければならず、時間がとられてしまうので、宇部市のように市から保護者へ直接情報を流すことができるようになればありがたい。
委員長	それぞれのイベントの詳細はついているのか。
委員	URL が張り付けてあるので、イベントごとに詳細が分かるようになっている。
事務局	当課が担当ではないので、担当課に話をしてみる。
委員長	ぜひ検討をお願いします。
委員	データベースについては、学校側でもかなり便利であると感じる。例えば書道の指導を外部にお願いしたいときに、一覧があればどこに問い合わせをすればよいか一目瞭然である。
委員	学校活動に協力できる団体だけをソートできるような機能もあればいいなと思う。

委員	以前は市に生涯学習の指導者一覧があったが今はあるのか。
事務局	以前に同内容のものを他の委員の方からご指摘いただいたことがあったのでこちらで探してみたが、今はもうないとの回答があった。
委員長	時間も迫っているため話をまとめると、今後は学校との連絡ツール統一化の検討とホームページ作成についての予算取りを進めていくということによろしいか。
事務局	承知した。連絡ツールについては担当課への確認、ホームページについては予算要求を行っていくことにする。
委員長	一点質問だが、将来的にホームページの運営を文化協会に移管することは出来るのか。
事務局	可能ではある。ただ、文化協会の会員以外の情報も掲載することになるがよろしいか。
委員長	一度持ち帰り、文化協会内で協議してみる。
	（２）令和６年度事業のアンケートについて 資料４に沿って説明。
委員長	文化協会のものも開示するか協議してみる。
	～終了～